



【学校訪問からの好事例紹介】

1人1台端末を効果的に活用し、主体的に学ぶ姿を引き出す授業実践

西部教育局
お役立ち情報
令和6年9月号

日南町立日南中学校の実践より

社会科：歴史的分野「中国にならった国家づくり」（第1学年）
学習課題：「日本の古代の国づくりにおいて、最も貢献したのは誰か、理由をつけて説明できる」



ポイント1 諸資料から根拠を明確にして、自分の考えを整理する際に思考ツールを活用する。 **Good!**



4人(聖徳太子、中大兄皇子、天武天皇、聖武天皇)の業績について、「大陸の文物や制度を積極的に取り入れたか」「中央集権へ貢献したか」の視点で評価し、思考ツール(座標軸)を使って考えを整理する。

B3 思考を深める学習



紙のワークシートも準備されており、考えを整理したり表現したりしていく方法や、タブレットの思考ツールに記入するタイミングは生徒に任されていました。



ポイント2 他者参照したり、気になる考えがあれば意見交流したりする。 **Good!**



生徒は端末上で他の生徒のスライドを見ることで、困った時や考えを広げたい時に他者参照しながら、自分の考えをまとめていく。他の生徒の考えで気になるものがあれば、席を移動して意見交流を行い自分の意見を再構築する。

C2 協働での意見整理



生徒同士がクラウド上でつながりながら学ぶことができ、生徒が必要に応じて他者の活動の様子を見て、参考にするかしないか、他者と対話するかどうか等、学び方の進め方を自己決定できます。



ポイント3 個別の支援が必要な生徒の状況や全体共有したい意見を把握する。 **Good!**



先生の端末から、各生徒の学習の進捗状況を確認し、支援が必要な生徒に対しては、個別に声かけをする。また、特徴的な考え方のできている生徒、社会科の学習として価値のある考え方のできている生徒等の意見を事前に把握し全体共有を行う。大型モニターに提示しながら共有し、文字が見にくい場合は、生徒は手元の端末で拡大して確認する。

C1 発表や話し合い



教師が事前に全体共有で紹介したい生徒の考えや進捗状況を把握することで、生徒が多面的・多角的に考察する展開につなげることができます。また、積極的に発言する生徒の意見のみで授業が進んでしまうのではなく、挙手をして発表することが苦手な生徒の意見も紹介できます。



今回紹介した授業実践では、「追究したくなる問いの設定」や「主体的・対話的に学びを深めることができるような場の設定」を意識されていました。そのような授業の展開の中で1人1台端末が効果的に活用されたことにより、生徒が主体的に活動する姿が多く見られました。また、意見を発表した後の生徒の表情は、充実感を得ているように見えました。